

2024 年度第 3 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 第 2 四半期の決算・経営説明会で、第 3 四半期の海外事業は黒字に転じるという説明があったが、実際その通りになったのか。
- A1：** 第 3 四半期の海外事業は概ね想定通りに推移した。Opal 社で決算調整があったが、黒字に転じることができた。
- Q2：** 2024 年 9 月末の調整後ネット D/E レシオは 2.07 だったが、12 月末はどうだったのか。
- A2：** 2024 年 12 月末の純有利子負債残高は約 7,300 億円、調整後ネット D/E レシオは 1.96。計画通りの進捗。今後も政策保有株式などの資産売却などを行い、3 月末に向けてさらなる削減を図っていく。
- Q3：** Opal 社は第 4 四半期にかなり持ち上げる想定になっていると思うが、現在の進捗を聞かせてほしい。
- A3：** 詳細な話は控えるが、四半期単位で見た場合、少なくとも期を追うごとに改善しているという流れは変わっていない。また、対前年で見ても改善傾向は続いている。
- Q4：** 経済産業省が再生可能エネルギー支援の範囲を見直すという話が出たり、バイオマス燃料が高騰したりする中、今後、御社のエネルギー事業ではどのような手を打っていくのか。
- A4：** 売電価格については、当社が既に契約している FIT 価格が引き続き維持されると理解している。また、海外から調達する燃料については基本的には長期契約をベースとしており、為替もヘッジをしているケースがほとんど。今後、当社のバイオマス発電事業の損益が大きく毀損することはないだろうと現時点では見ている。
- Q5：** 第 3 四半期だけの営業利益を見ると約 90 億円になる。この利益水準は、第 4 四半期や来年度にかけてもコンスタントに出すことができそうか。
- A5：** 第 3 四半期は全セグメントが黒字になった。この利益水準は、今後もコンスタントに出していきたい。もっとも、生活関連事業は今の利益水準ではまだ物足りないので、もっと伸ばせるように取り組んでいきたい。
- Q6：** 古紙の調達価格は 2Q から 3Q にかけても上がっているのか。
- A6：** 古紙価格は全般的に上がっている。今後も市況をしっかりと見極めながら対応していく。
- Q7：** 紙・板紙事業の原価改善について教えてほしい。第 3 四半期は想定通りに効果が発現したということで良いか。需要が少し弱いように感じるが、第 4 四半期にかけてもしっかり効果は発現できるのか。

- A7：** 第3四半期単体では、原価改善は23億円の効果が出ている。操業が安定し、原単位が良くなってきたことが理由。やっぱり操業安定がカギになる。ここがきちんと担保できれば、第4四半期も原価改善の効果は出ると思う。
- Q8：** 生活関連事業は、ケミカル事業が回復していることが大きいと思うが、ケミカル事業は来期も増益が期待できるのか。
- A8：** ケミカル事業は、輸出を中心に数量が安定している。足元は比較的順調な状況と捉えているので、来期もそれぞれの製品で伸ばしていきたい。

以上